

第4学年*組外国語活動指導案

指導者 HRT 堀 裕美子
R1 研修センター長期研修
ALT Wadi Salem

1 単元名 Unit7 What do you want? (Let's Try!2)

2 本単元で育成する資質・能力

- (1) 食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいること。 (知識及び技能)
- (2) 欲しいものを尋ねたり答えたりする場面において、自分の考えや気持ちなどを伝え合っていること。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- (3) 相手に配慮しながら、欲しいものについて積極的に尋ねたり答えたりしようとしていること。 (学びに向かう力, 人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
・ 欲しいものの尋ね方と答え方を、やり取りの場で活用できる基礎的な技能の素地を身に付けている。	・ 欲しいものを尋ねたり答えたりする場面において、相手や目的に応じて、自分の考えや気持ちを伝え合っている。	・ 欲しいものを尋ねたり答えたりする場面において、相手に配慮しながら主体的にやり取りをしようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、児童がそれまでに慣れ親しんだ語彙や表現を使いながら、欲しいものを尋ね合う場面を通して、児童同士で二往復以上のやり取りを行う。互いの考えや気持ちを伝え合うことで、言葉で通じ合うことの楽しさを十分に感じさせたい。自分の考えや気持ちを伝え合えるようにするために、題材を児童の興味・関心が高い食材を扱う。中心の言語材料は、“What do you want?”と“I want~, please.”である。さらに、“How many ~?”や“Do you like ~?”など、これまでに慣れ親しんだ表現を扱う場面を設定する。“What do you want?”や“~, please.”は既に3年生で慣れ親しんでいる。そこで本単元では、やり取りにおいて、伝えたい内容と既習の英語表現を同時に思考して、自分の考えや気持ちを伝え合うことを目指す。

(2) 児童観

本単元を実施するに当たり、本学級の児童(男18人, 女12人, 計30人)に対して意識調査を実施した。質問内容は、相手意識や目的意識をもってやり取りしようとしていたか、既習の表現の中から、自分が使いたい単語や表現を選んでやり取りしようとしていたかについてである。

<p>1 あなたは、自分の考えや気持ちを伝えるために、相手の目を見たり、ジェスチャーを使ったりしていますか。</p> <table border="1"><tr><td>・使っている</td><td>3 人</td></tr><tr><td>・どちらかと言えば使っている</td><td>8 人</td></tr><tr><td>・どちらかと言えば使っていない</td><td>15 人</td></tr><tr><td>・使っていない</td><td>4 人</td></tr></table>	・使っている	3 人	・どちらかと言えば使っている	8 人	・どちらかと言えば使っていない	15 人	・使っていない	4 人	<p>2 あなたは、友達に質問したり、答えたりするときに、その時の状況を考えて、今までに習った英語を使っていますか。</p> <table border="1"><tr><td>・使っている</td><td>3 人</td></tr><tr><td>・どちらかと言えば使っている</td><td>10 人</td></tr><tr><td>・どちらかと言えば使っていない</td><td>12 人</td></tr><tr><td>・使っていない</td><td>5 人</td></tr></table>	・使っている	3 人	・どちらかと言えば使っている	10 人	・どちらかと言えば使っていない	12 人	・使っていない	5 人
・使っている	3 人																
・どちらかと言えば使っている	8 人																
・どちらかと言えば使っていない	15 人																
・使っていない	4 人																
・使っている	3 人																
・どちらかと言えば使っている	10 人																
・どちらかと言えば使っていない	12 人																
・使っていない	5 人																

意識調査の結果から、児童は相手意識をもってやり取りをしている具体的な姿をイメージできていないことが分かった。また、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、伝えたい内容と既習の英語表現を同時に思考して、自分の考えや気持ちを英語で伝えることに課題があることが分かった。これらの理由として、決められた表現を使った発表や反復練習に終始してしまっていたことが挙げられる。相手意識と目的意識をもちながら、学習した英語表現を想起し、思考、判断しながらやり取りすることが必要であると考えられる。

(3) 指導観

児童がやり取りの場において、自分の考えや気持ちを伝えるためには、児童にとって身近で具体的な場面を設定し、その中で「誰が」「誰に」「何のために」という「相手意識」や「目的意識」をもたせた上で、伝え合う活動にすることが大切である。

単元の始めにオリエンテーションを行い、活動に見通しをもたせるために、バックワードデザイン（逆向き設計）の考え方で単元計画を立てる。相手意識と目的意識をもち、互いの考えや気持ちを伝え合うために、慣れ親しむ、練習する、活用するという三つの場面を設定し、お互いの考えや気持ちを理解して二往復以上のやり取りを行うことをゴールとして示す。

単語や表現に慣れ親しむ場面では、単語や表現にくり返し触れさせるために、フラッシュカードを使ったり、チャンツや簡単なゲームを行ったりする。

練習の場面では、目的意識をもたせるために、児童自身が自分で役割を選択し、「誰に何を伝えるのか」を明確にしたペア活動やグループ活動を行う。その際、相手意識のあるやり取りにするために、話し手は、聞き取りやすい声で言ったり、ジェスチャーを交えたりしながら聞き手を意識して分かりやすく伝える。聞き手はうなずくなどの反応を返して相手の考えや気持ちを受容しながら聞こうとする。こうした非言語手段も使いながら、英語でのやり取りをしようとしている姿を目指す。

活用する場面では、慣れ親しんだ単語や表現を想起しながら、自分の考えや気持ちを伝え合うために、「オリジナルのカフェメニューを作ろう」という場面を設定する。ネイティブスピーカーが開くお店に、お客さん役の児童が欲しい食材を買いに行くという設定で、既習表現を使って、自分の考えや気持ちを伝え合えるようにする。

5 単元の指導計画（6時間扱い）

場面	学習内容・活動	指導上の留意点
慣れ親しむ場面	1 ○食材の言い方に慣れ親しみ、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を知る。 ・オリエンテーションで、デモンストレーションを見て、2往復以上のやり取りを行うイメージをもつ。 ・デジタル教材を視聴し、世界の市場と日本の市場を比べる。 ・チャンツを行う。“What do you want?” ・ミッシングゲーム、カルタゲームを行う。	・本単元で使用するふり返しカードを児童に示し、慣れ親しむ場面、練習する場面、活用する場面でのそれぞれの活動に見通しをもてるようにする。 ・外来語ともとの言葉では、発音の違いがあることに気付き、英語の発音に慣れるようにする。 ・欲しいものを尋ねたり、答えたりする言い方をくり返し発話するようにする。
	2 ○食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・チャンツを行う。“What do you want?” ・キーワードゲーム、マッチングゲームを行う。	・欲しいものを尋ねたり、答えたりする言い方に慣れ親しめるようにする。
練習する場面	3 ○相手意識と目的意識をもって、欲しいものを尋ねたり、答えたりしようとする。 「茨城県のフルーツ&ベジタブルマップを作ろう」 ・友達に質問をして、茨城県の野菜と果物の主な産地についてまとめた絵地図を完成する。	・掲載した内容の異なる2種類の地図を用意することで、友達に質問をしなければ、地図が完成できないようにし、目的意識をもたせながら、やり取りをさせるようにする。
	4 ○相手意識と目的意識をもって、欲しいものを尋ねたり、答えたりしようとする。 「先生のごよこびつを作ろう」 ・グループで、客役と店員役を交代してやり取りをしながら、先生が喜ぶピザを完成する。 ・デモンストレーションを見て、相手の答えをくり返したり、リアクションをしたりしながらやり取りをすることの大切さに気付く。	・相手意識と目的意識をもち、話し手の答えにリアクションをしたり、くり返しをしたりするなどの反応をしながら、やり取りをさせるようにする。 ・積極的に互いの考えや気持ちを伝え合うやり取りをさせるようにする。
	5 ○相手意識と目的意識をもって、欲しいものを尋ねたり、答えたりしようとする。 「友達の食べたいパフェを作ろう」 ・二人一組でやり取りをしながら、互いの好みのパフェを完成する。 ・デモンストレーションを見て、ジェスチャーや相手の目を見てやり取りすることの大切さに気付く。	・相手意識と目的意識をもち、友達の目を見て、ジェスチャーを交えながら、やり取りをさせるようにする。 ・互いの考えや気持ちを伝え合うやり取りの楽しさを味わわせる。
本時	6 目標：既習表現を使って、相手意識と目的意識をもって、欲しいものを尋ねたり、答えたりしようとしている。 1 あいさつをする。 2 ウォームアップを行う。	・明るく元気にあいさつをし、楽しい雰囲気にする。

- ・フラッシュカードを使って、発音練習をする。
- ・ALT, HRTと会話をする。

3 本時の学習課題を確認する。

「オリジナルのカフェメニューを作ろう」

- ・ピザ, サラダ, カレーライス, パフェ, フルーツボウルの五つのメニューから選ぶ。

4 本時の活動に取り組む。

- (1) 店員役のネイティブスピーカーの自己紹介を聞く。
- (2) ネイティブスピーカーとやり取りをして、自分が作りたいメニューの食材を買う。

会話例

店員: What do you want?
 客: I want oranges, please.
 店員: O.K. How many oranges?
 客: Two, please.
 店員: Two? O.K. Here you are.
 客: Thank you.

5 本時をふり返る。

- (1) ふり返りカードに記入する。

ふり返りの観点

- ・友達の間を見て、話したり聞いたり、ジェスチャーを使うことができた。
- ・友達の答えにリアクションをしたり、くり返しをしたりすることができた。
- ・練習した英語の中から、自分が使いたい単語や文を使って、自分の伝えたいことを話すことができた。

- (2) 感想を発表する。

6 終わりのあいさつをする。

- ・ネイティブスピーカーに感謝の気持ちを伝える。
Thank you.
- ・ALT, HRT, ネイティブスピーカーとあいさつをする。
Goodbye. See you.

- ・今日使う言語材料を発話し、自信をもって活動に取り組めるようにする。

- ・本時のめあてと活動の流れを確認し、児童が見通しをもって活動に取り組めるようにする。

- ・誰がどのお店の店員なのかを確認し、自分のメニューを完成させるには、どのお店に行くのかを選ぶ手がかりとなるようにする。

- ・相手の目を見て、ジェスチャーを付けたリ、相手の答えをくり返したり、リアクションをしたりしながら、分かりやすく伝えたりするように、助言する。

- ・積極的にやり取りしている児童を称賛し、励ます。

※戸惑っている児童には、単語だけで伝えてもよいことを伝える。

◎既習表現を使って、相手意識と目的意識をもって、欲しいものを尋ねたり、答えたりしている。

(思考力・判断力・表現力)【行動観察】

- ・三つの観点においてふり返りを行い、相手意識と目的意識をもって、やり取りをしていたかを自己評価できるようにする。

- ・友達とのやり取りを通して、気付いたことや学んだことを記入させる。

- ・本時の活動でよかった点について称賛する。

- ・次時への喚起につながるように、元気よくあいさつをする。